

沼津高架P Iプロジェクト



審議事項 2

全ステップを通じてのプロセス評価について

【第12回P I委員会】

【審議事項 2】
全ステップを通じた
プロセス評価について

全ステップを通じたP I 委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか

全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

- 1 多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか

【自己点検】

- ステップ2では、寄せられた意見の整理において、鉄道高架や貨物駅移転の賛否を論点とするのではなく、それら意見の動機となっているニーズ(利害関心)として整理し、結果として共通点を見出すことができた。
- ステップ3では、事業等の是非が直接的に案に表現されるため対立しやすい状況であったが、予断なき検討を基本ルールとして議論を進め、かつ、「地域づくりの目標」に常に立ち返ることで、多様な提案を引き出すことができたのではないか。
- また、勉強会では、それぞれの案の長短所について議論できたことから、相互理解を深めることができ、単なる心情的な反発は緩和されたと考えられる。

全ステップを通じた自己点検

(続き)

実施計画での評価の視点

1 多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか

【自己点検】

➤ステップ4では、特に駅周辺地区と原地区の参加者が一堂に会した合同勉強会にて、お互いの考え方や視点、抱えている事情について相互理解が深められるよう努めた。また、お互いの地域の判断が他地区に影響し得ることが認識されたため、可能性のある代替案をごく数案まで絞り込むことについても概ね共通の理解が得られたと考えられる。

➤ステップ5以降においては、定量的分析を含む客観的な比較評価を前提に、各案の特徴について冷静に理解できるように努めた。結果として、心情的反発や教条的主張は影をひそめたと言えるのではないか。また、各代替案の可能性を多様な観点から見比べることで、互恵的な解決策の余地が見出しやすくなったのではないか。

【相互理解・信頼の確保】(勉強会アンケートから)

- 様々な立場や意見を持つ人も、沼津に対する共通した思いがあった。
- 原地区の地元住民の誇りや心情を理解できるようになった。
- 市民の疑問点に耳を傾けるPIプロジェクトは行政のあるべき姿であると評価する。
- 事務局が高架推進という立場に身を置きながら、市民の多様な意見を尊重し運営したことで、信頼感を持つようになった。

【勉強会の出席状況】

- 44名中、平均34名(78%)が出席
- 8名が全回出席、13名が1回のみ欠席

全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

2 どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか

【自己点検】

- 全てのステップを通して、検討している段階(ステップ)やその検討内容を繰り返し確認しながら進めた。
- 当初はステップを踏まえない意見も多かったが、繰り返し確認したことで、段階を追うごとに議論される内容が徐々に整序化されるようになり、終盤では段階的な進め方への理解が浸透した。

全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

3 議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか

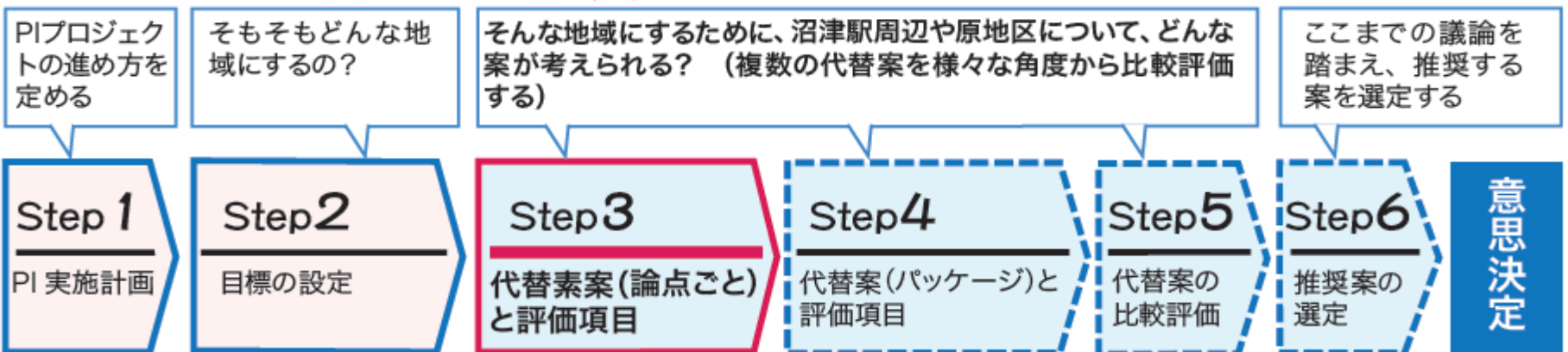
【自己点検】

- 特に勉強会では、当初議論が発散しやすかったが、議論のテーマを仕分け、集中させ、発散を抑えたため、各ステップごとの議論が深まった。
- 先のステップに関する発言は、ファシリテーターがそれらを把握した後、保留して該当するステップに先送りしたことで、意見を無視することなく意見の整理ができ、結果として段階的な進め方が浸透した。
- 議論をひとつのテーマに集中させる上では、ステップごとに議題をしっかりと絞ったことと、ファシリテーターの会議運営が非常に有効であった。

【検討段階とテーマの説明図の例】

(ニューズレター第6号より)

ただいま、ステップ3が進行中！



全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

- 4 多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか

【自己点検】

➤当初は鉄道高架や貨物駅移転の賛否に関する意見が多かったが、その理由となっているニーズ(利害関心)を読み解き、地域づくりの目標として整理したことで、賛否論から脱却し、沼津駅周辺地区や原地区の在り方について議論することができ、ある程度の考え方の共有化が図られた。

➤しかし、代理として途中から参加した参加者は、これまでの議論への理解が不足していたため、他の参加者と議論がかみ合わない状況も見られたため、事前説明や情報提供などを行うべきであった。

全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

5 市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか

【自己点検】

- 全戸配布された広報紙の配布、女性が立ち寄りやすい食品売り場の近くや若者が集まる商業施設など多様なサイトでオープンハウスを開催し、情報提供と意見把握を行うことで、多重多層のコミュニケーションを行うことができた。
- 女性団体、特殊学校、各事業者など多くの団体を対象に車座談議を開催し、意見把握や検討内容に関する理解促進に努めた。また、各団体推薦の固定メンバーで議論を重ねる勉強会を通じて、複雑な内容についても議論を深めることができた。

全ステップを通じた自己点検

実施計画での評価の視点

6 積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか

【自己点検】

- ステップ全体を通じて、広報紙の全戸配布（新聞折込配布）、ホームページでの迅速な情報提供、PI委員会のインターネット中継、開催団体の意向による車座談議などを通じて、精力的に情報提供を行った。
- 表層的な意見把握とならないよう、直接的な対話を通じての意見把握に努めた。
- 把握された意見の論点整理では、鉄道高架や貨物駅移転の賛否を論点とするのではなく、動機となっているニーズ（利害関心）に注目して意見を整理し、互恵的な解決策を見出すための素地づくりに努めた。

【意見整理方法の解説】

寄せられた意見



これまで寄せられた意見を「どのような地域を目指すのか」という視点で読み解き、地域づくりの目標として整理



地域づくりの目標

暮らし

交流

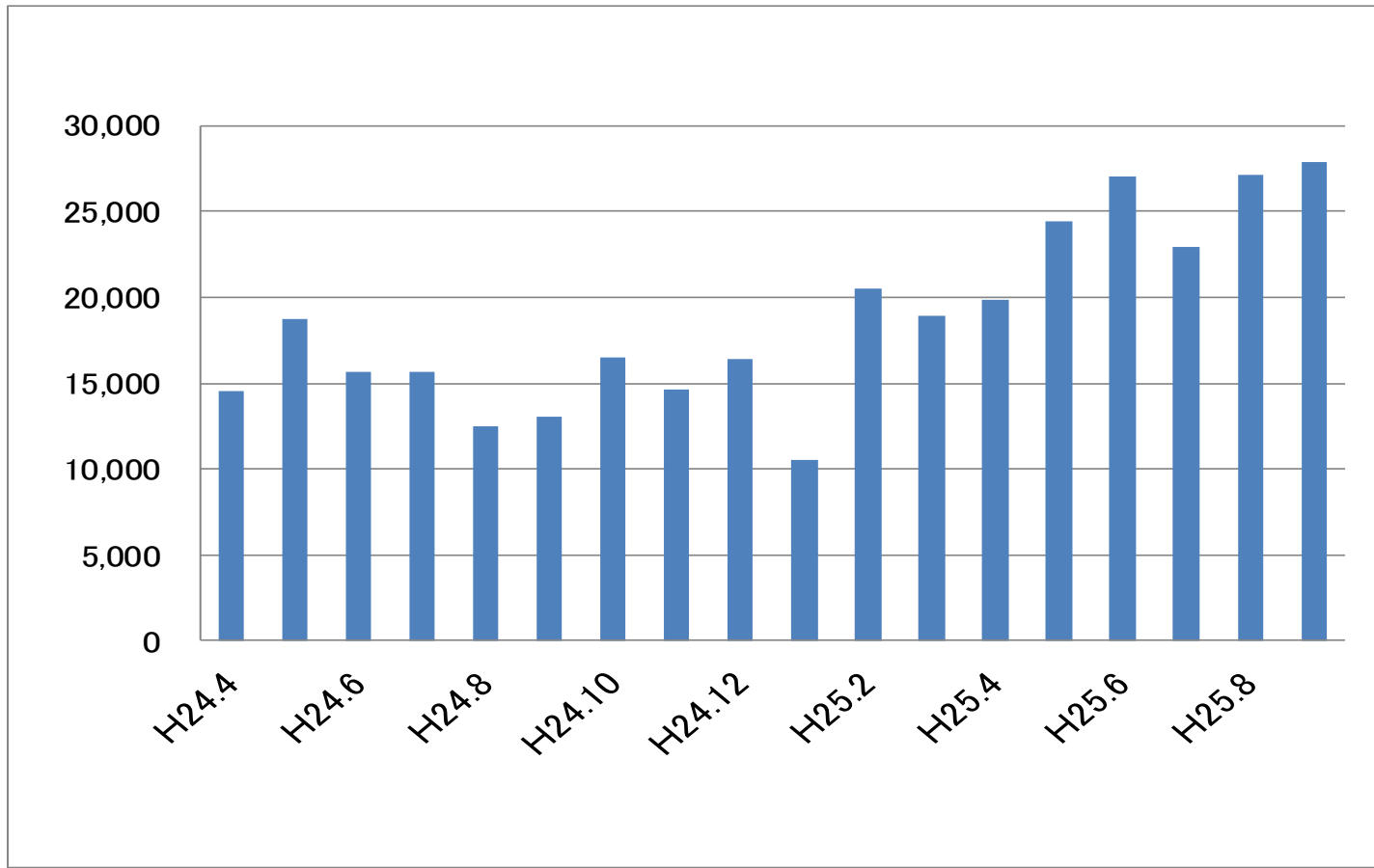
活力
(産業・雇用)

交通

防災

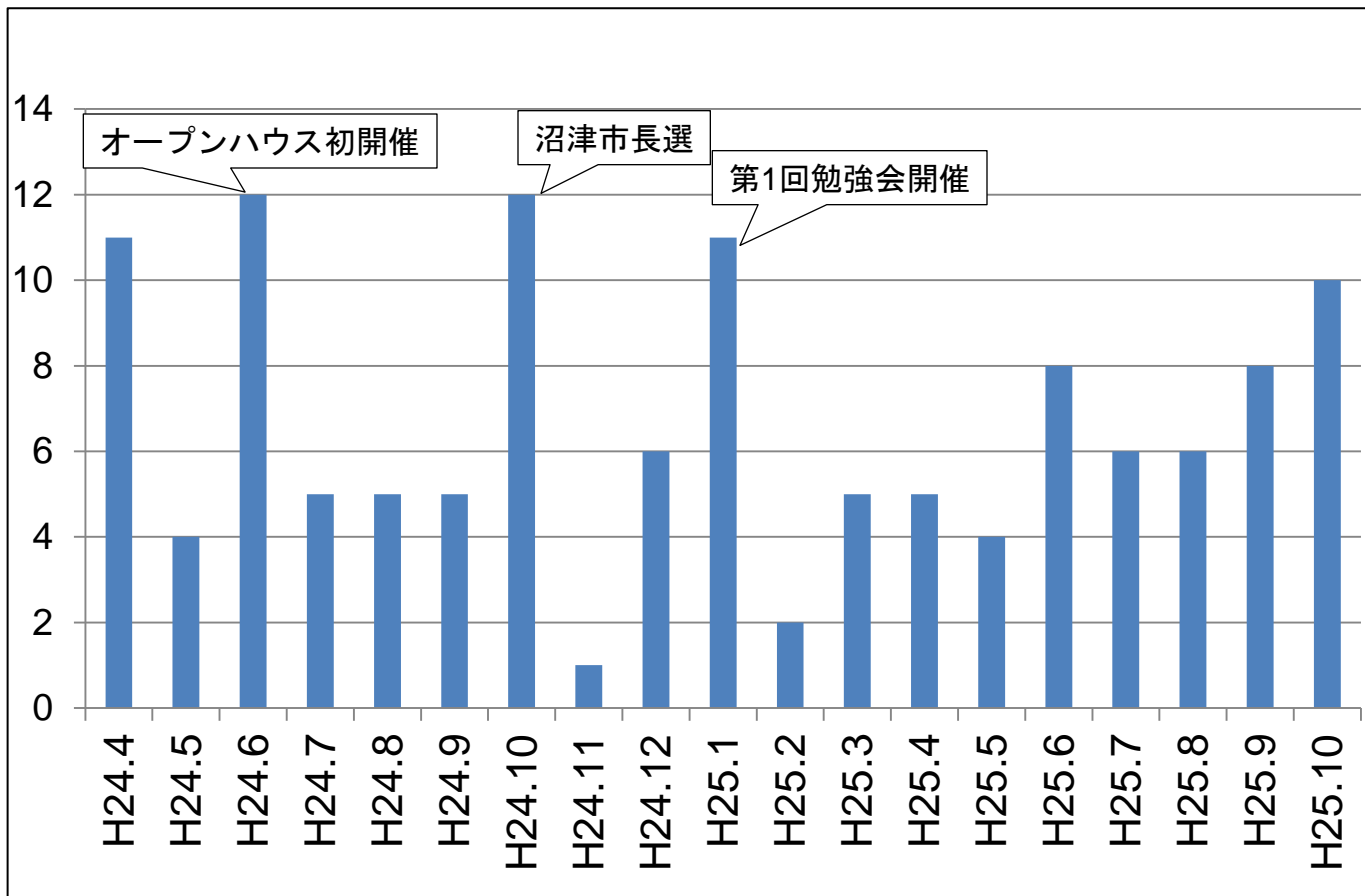
【一般市民の認識状況の変化】

ホームページ数



【一般市民の認識状況の変化】

新聞記事数



全ステップを通じた自己点検

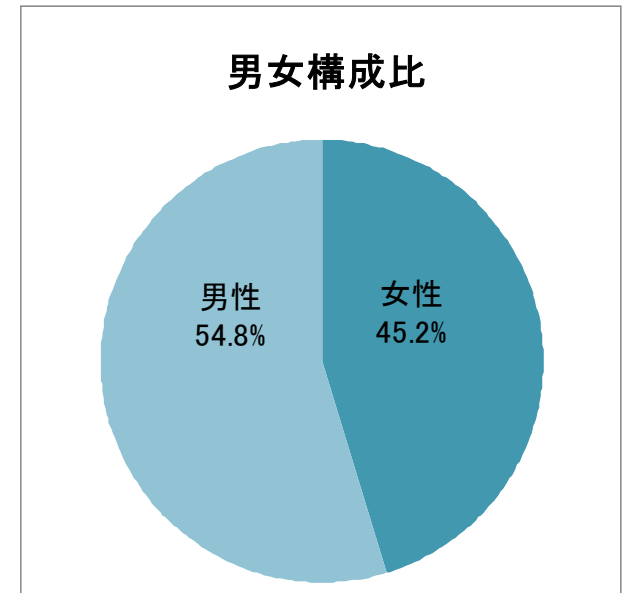
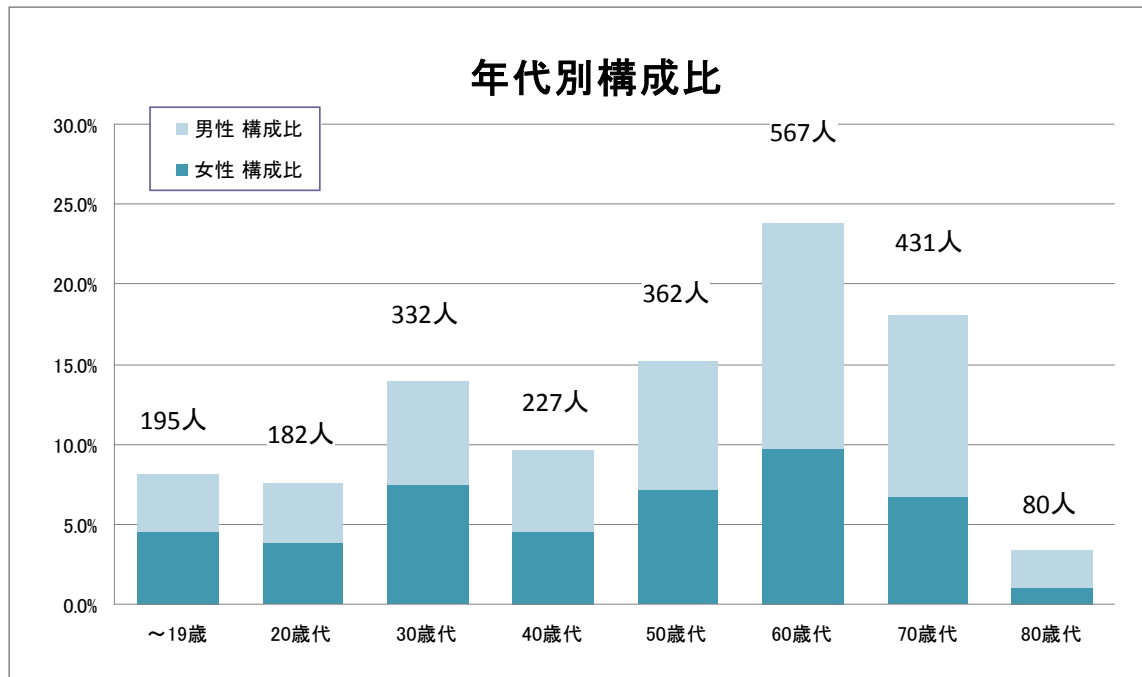
実施計画での評価の視点

7 PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか

【自己点検】

- 技術検討では、技術検討アドバイザーからの指導や監査を受け、公正性と客観性の確保に努めた。
- コミュニケーションの方法に工夫し、女性や若年層なども含む広範な層に多様な方法でアプローチできるよう努めた。
- 時間管理概念が常に意識されるよう、検討プロセスやスケジュールを常に明示して運営した。
- 対立軸を巡る争いに立ち戻らないよう、地域づくりに軸足を置いた俯瞰的な論点整理を行い、議論の整流化と効率化に努めた。

オープンハウスにおける年代別構成比及び男女構成比



全ステップを通じた自己点検 総括

- ▶ステップ3では、事業等の是非が直接的に案に表現されるため対立しやすい状況であったが、予断なき検討を基本ルールとして議論を進め、かつ、「地域づくりの目標」に常に立ち返ることで、多様な提案を引き出すことができたのではないか。
- ▶当初はステップを踏まえない意見も多かったが、繰り返し確認したことで、段階を追うごとに議論される内容が徐々に整序化されるようになり、終盤では段階的な進め方への理解が浸透した。
- ▶ステップ全体を通じて、広報紙の全戸配布（新聞折込配布）、ホームページでの迅速な情報提供、PI委員会のインターネット中継、開催団体の意向による車座談議などを通じて、精力的に情報提供を行った。
- ▶技術検討では、技術検討アドバイザーからの指導や監査を受け、公正性と客観性の確保に努めた。